

鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会 別冊 参考資料

鳥飼まちづくりグランドデザイン 居住性向上エリアA抜粋版

令和4年9月11日



摂津市

② 居住性向上エリア 【Aエリア】

【エリアの特徴】

当エリアは古くからの集落が存在するエリアであり、脈々と人の営みが紡がれてきました。淀川に沿う形でエリアが形成されており、河川敷の淀川河川公園には運動やペットの散歩等をする人が多くおり、特に休日にはイベントの開催等と相まってエリア内外から多くの人に来て賑わっています。

また、地域内には、点在する水田と縦横に張り巡らされた淀川から取水している農業用水路があり、古くから継続する献灯行事(ねりこみ)などで知られる藤森神社があります。また、かつては鳥養牧や三本松天神社などがあったとされています。

一方、当エリアは、水害時には最大で水深3m～10m、浸水継続時間も2週間以上が想定されていることから、広域避難など、命を守る行動を確実に実施することが求められています。

〔居住性向上エリア(Aエリア)の様子〕



古くからの集落地



淀川河川公園



用水路



藤森神社の献灯行事(ねりこみ)

【将来予想(将来に向けたまちづくり)】

水の潤いを感じ、ゆとりのある居住空間があり、円滑に広域避難ができる

エリア内に張り巡らされた水路は自然豊かな水辺環境を提供し、生活道路は拡幅され、住宅から府道大阪高槻線等の幹線道路へのアクセスが容易となります。また、地域内の通過交通もできる限り排除されており、快適に移動できる道路が確保されています。

ゆったりと広い敷地面積がある居住地が広がり、洪水など自然災害への備えを十分に行っている住民が、落ち着いて安心した暮らしをしています。

淀川を見ると、堤防につながる河川防災ステーションがあり、いざ自然災害の発生の危機が迫ったら、自家用車を所有する住民の多くは広域避難を行い、自家用車を持たない住民や高齢者・障害者等の避難行動要支援者は、近隣住民の協力を得て河川防災ステーションなどの「高台」にある指定された避難場所への緊急避難、そして、避難施設の収容状況に応じて近隣市の施設への安全な移送等により、生命と身体の安全確保がなされています。

また、河川防災ステーション上にできた複合型交流拠点では地域イベントやバーベキューなど、地域のにぎわいが創出されているほか、淀川河川敷ではサイクリングやドッグラン等の住民のライフスタイルに合わせた多様な利用がなされています。

このエリアの住民は、自分たちの生命と身体は自分たちで守るという意識が浸透しています。また地域では、日常から様々な人々が互いにつながり・支え合うコミュニティが形成されており、災害時の避難誘導や安否確認さらには避難所運営などがコミュニティ主体で実施されるなどの「地区防災活動」が活発になっています。

多様化する生活課題の解決に向け、平時からの見守りなどをはじめ住民すべてが協力している様々な「地域福祉活動」が展開され、住民一人ひとりの暮らしの質が高められています。

このようなコミュニティは、藤森神社の伝統行事や淀川河川敷で行われる淀川わいわいガヤガヤ祭などの恒例となっているイベント、淀川や水路、水田、街路など、良い住環境を形成する地域の財産を誇りに思い、守り育んでいます。



図 2-3 居住性向上エリア【Aエリア】将来予想イメージ

【現状と課題】

将来予想(将来に向けたまちづくり)を実現するにあたり、エリアの現状を踏まえると以下のような課題が存在します。

エリア内の生活道路は、全体的に道幅が狭く行き止まり道路も多いため、災害発生後は車両の通行が困難となりやすく、復興の妨げになると考えられる場所が存在しています。淀川堤防沿いの道路では、車道幅が広くないにも関わらず通過交通と思われる車が多く走行していることや、府道大阪高槻線の歩道の凹凸・段差等の自転車通行、歩行における危険な箇所もあり、高齢者や子どもをはじめ、居住者にとって危険で利用しづらい状況がみられます。

また、洪水時には、エリア全体が水没するだけでなく、はん濫流による家屋倒壊・流出等の恐れがある箇所もあり、被災後の生活再建について資金面を含め十分に対策を講じておく必要があります。

このエリアには多くの水路が張り巡らされていますが、現状の水路の役割は、農業用水の供給、地域内の雨水排除であり、水とふれあえるような機能は有していません。また、淀川河川敷については、イベントの開催やスポーツ、散歩等の利用はみられますが、地域のにぎわい創出にまで貢献できているかは不明です。

水害の発生の恐れがある時は広域避難をしていただくことを原則としていますが、高齢者、障害者等の避難行動要支援者など広域避難が困難になる人たち(令和4年現在 約320人)は、近くの安全な緊急避難場所が必要となりますが、「高台」化した浸水しない施設等は現時点で多くありません。

防災や地域福祉などの様々な生活課題を解決するために必要な、地域のつながりを確保する場や組織の強化が必要です。

【課題解決に向けた取組の方向性】

(1) エリア内の生活道路は、全体的に道幅が狭く行き止まり道路も多い
ため、災害発生時でも自動車による円滑な避難ができるよう、
必要な路線の道路拡幅に努めます

〈取組イメージ〉

◎「誰もが移動しやすい環境づくり」

- ・ 幹線道路(府道大阪高槻線)に接続する生活道路の拡幅【長期】



(2) 淀川堤防沿いの道路等の改良及び堤防天端道路の整備に向けた
検討を行います

〈取組イメージ〉

◎「誰もが移動しやすい環境づくり」

- ・ 幅員の狭窄やハンプ設置等による車両速度を制限する措置
の検討【短期～長期】
- ・ 河川防災ステーションに接続する堤防天端道路の整備に向
けた検討【短期～長期】



(3) 府道大阪高槻線の歩道の凹凸・段差等、自転車通行や歩行におけ
る危険な箇所を改良し、高齢者や子どもをはじめ、居住者が安
心・安全に歩行等できる環境整備に取り組みます

〈取組イメージ〉

◎「誰もが移動しやすい環境づくり」/◎「子どもや高齢者にやさし
い環境づくり」

- ・ 歩道狭小区間に関する歩道整備に向けた検討【短期】
- ・ 通学路等における歩行者の安全対策【短期～長期】



(4) エリア全体が水没するだけでなく、はん濫流による家屋倒壊等
のおそれがある箇所も存在しているため、防災知識の普及啓発
と「自分たちの命は自分たちで守る」という意識の醸成、水害保
険の導入検討を行います

〈取組イメージ〉

◎「自助 共助 公助(みんな)でつくる安全安心」

① 防災知識の普及

- ・ 防災出前講座、防災教育の授業、自主防災訓練の実践等【短期】

② 災害の備え

- ・ 水害保険の導入検討等【短期】

③ 敷地面積の拡大化などのまちづくり誘導策の検討・実施【長期】



(5)避難行動要支援者など広域避難が難しい住民の安心・安全の確保のため、水害時に一時的に避難できる施設の建設や公共施設の高台化等、高台まちづくりを推進します

〈取組イメージ〉

◎「自助 共助 公助(みんな)でつくる安全安心」

- ・ 緊急避難場所としての堤防の活用方法の検討【短期～長期】
- ・ 河川防災ステーションの整備促進(複合型交流拠点の整備)【短期】
- ・ 公共施設の建替え等に併せた高台化(市立とりかいこども園の高台化整備等)【短期～長期】
- ・ 緊急避難場所の確保(民間施設との防災協定の締結)【短期】
- ・ 避難行動要支援者の個別避難計画の作成等【短期】



(6)誰もが集うことができる「場」の創出や、住民や組織・団体等の横のつながりを促進し、避難行動要支援者を支えられる、高齢者も子育て世代も気持ちよくコミュニティ活動ができる環境を整えます

〈取組イメージ〉

◎「つながってみんなが活躍できる環境づくり」

- ・ NPOや事業者との地域資源を活かした公民連携の取組検討【短期】
- ・ 新たなコミュニティ拠点としての河川防災ステーションの活用【中期】
- ・ 公衆Wi-Fiの整備【短期】

◎「子どもや高齢者にやさしい環境づくり」

- ・ 市立とりかいこども園の建替えに併せたつどいの広場・児童センター機能の整備【短期】
- ・ 河川防災ステーション上部施設への福祉相談窓口の設置検討【短期～中期】



(7)エリア内に張り巡らされている多くの水路を活用して、水とふれあうことができる水辺空間の創出に向け取り組みます

〈取組イメージ〉

◎「地域資源を活かしたにぎわい・魅力あふれる環境づくり」

- ・ 農業用水路を親水空間として再整備の検討【短期～中期】



(8) 淀川河川敷の、地域のにぎわい創出や多様なライフスタイルを支える「場」としての活用を推進します

〈取組イメージ〉

- ◎「地域資源を活かしたにぎわい・魅力あふれる環境づくり」
 - ・近隣住民の意見を踏まえた淀川河川敷の活用方法(桜堤等)の検討【短期】
 - ・淀川舟運との連携による地域外からの人を呼び込む方策の検討【短期～中期】



(9) 若い世代を含め、住民が地域の財産を活用して地域の魅力を創出し、積極的に情報を発信します

〈取組イメージ〉

- ◎「地域資源を活かしたにぎわい・魅力あふれる環境づくり」
 - ・既存事業やイベントに対する支援方策の検討【短期】
 - ・シティプロモーションにつながる新たな魅力の創出方策の検討【短期】
 - ・地域住民、事業者等の地域の魅力を発信するSNS等の活用を推進【短期】

